



森のあそびは下川町の森林環境教育の一環でおよそ月に一回実施しています。森林環境教育はつぎの3つの目標をもとに、こども園・小学校・中学校・高校を対象に15年一貫で行なっている下川町独自の教育プログラムです。

- ・身近な自然における学びや楽しみを通じて人間的な成長を育む
- ・地域の資源である森林を活かす仕事について理解を深める
- ・森林の役割や地域の取組みについて考え、持続可能な社会に向けて自ら行動できる人を育む

森林環境教育は北欧発祥の「LEAF(リーフ)」プログラムに基づいて実施しています。

森のあそびのねらい

町内には子どもたちが遊べる豊かな自然環境があります。

森のあそびはこども園から歩いていける美桑が丘を中心に、安原公園や体験の森などで実施しています。

豊かな自然へ出かけて遊ぶことで、園舎の中では経験できない、本物の動植物の手触りやにおいを体験し、学ぶことができます。

森林環境教育プログラムLEAFのステップ「1. 野外で楽しく学ぶ」「2. 自然を体感して気付く」に基づき、森のあそびを通じてあらゆる自然の神秘さに触れることで、子どもたちの感性を高め、たくましく未来に生きる心と身体を育てます。

森には用意された遊具もおもちゃもありません。その代わり、たくさんの自然があります。



森の中では接するもの全てがいのちにあふれています。いのちに触れる感性を自然に養うこともできます。



子どもたちは森の中で周りの様々な素材を使って遊びを創り出していきます。その中で、自ら考え工夫する力を養うことができます。



デコボコした地面で遊ぶことでインナーマッスルが発達し、身体能力の向上、それに伴う行動の積極性にもつながると言われています。

森のあそびの目標

子どもたちが森のあそびの活動を主体的に楽しみ、五感を通して四季の移り変わりに気づき、感じる心を育みます。

また、その場での成果や答えを求めすぎず、子どもたち自身が森で感じることを大切にします。

さらに、野外活動だけでなく森の素材を活かした工作あそびにも取り組みます。

より充実した森のあそびにするために、下見の際にレクリエーション内容やテーマを指導者同士（森の生活、保育者）でお互いに共有するとともに、活動の安全確認を行なっています。

森のあそび3つの約束

毎回の活動時に子どもたちと確認しています。

☆ なんでも食べない（大人に聞かず実や葉っぱを口に入れない）

☆ 手のひらサイズの木の手は持っていいよ

（きいちご組は森のあそびに慣れてきたら木の手を持っていいというお約束で活動します。）

☆ 先生やお友達の見えない場所には行かない

森で安全に遊ぶために

実施にあたり、事前にスズメバチやヒグマ等について最新の情報を入手し、先生とスタッフが現地の下見を行い安全を確認しています。私たちは子どもたちが自然環境や生き物たちとの正しい付き合い方を知りながら、森を楽しむことが大切だと考えています。

森の中は小さな危険がいっぱいですが、ちょっとした準備と工夫をするだけで多くの危険を避けられて、ずっと快適に森のあそびを楽しめます！

服装のチェック

黒より白

スズメバチやダニは黒っぽい服装に寄ってきます。顔面だとハチは黒い眼玉を攻撃することも、それを逆手にとって、白っぽい服装が効果的です。

軍手をして、長そで
長ズボンで
のびのび遊ぼう

肌を出さない服ならひっかき傷もできにくい。下着は綿より乾きの早い化繊素材がおすすめです。しっかり身を守ると、気持ちよく遊べますよ。



帽子と手ぬぐいで
ガード

頭を守るため帽子は必ずかぶりましょう。虫よけだけではなく、熱射病や目の負担も防いでくれます。もちろん色は白っぽい色や明るい色を。ダニのいそうな場所では、白い手ぬぐいを首筋に巻くと効果的です。遊びの内容によっては手袋も忘れずに。

食べる前に...



食べる前は寄生虫の予防に流水でしっかり手を洗いましょう。水がなければ、除菌ティッシュを使って清潔を保ちましょう。

裏面の「ダニ・ハチ・クマについて」もご覧ください！

ダニ・ハチ・クマについて

野外活動で気になるダニ・ハチ・クマについてまとめました。



ダニ (マダニ)



<特徴>

- ・哺乳類の血液を吸って生きている
- ・草や葉っぱの裏によくいる
- ・皮膚の柔らかいところを探して吸血する
- ・マダニが媒介する感染症の原因になる
(全てのマダニが病原体を持っているわけではありません。)

<かまれないための予防策>

- ・かまれないためには**服装が重要**です! 「**服装のチェック**」を参考にしてください。
- ・森のあそび終了時には毎回ダニチェックをしています。
(森から出たときと園舎に帰ったときの2回チェックしています。)
ご帰宅後には着替えをして身体を点検していただくと安心です。
特にズボンのウエスト、首筋、脇の下、耳のまわりをチェック!

<かまれたときの対応>

- ・お迎えの前に気づいたとき
こども園や美桑が丘管理棟には「ダニリムーバー」を常備し、森のあそびの際には携帯しています。ダニリムーバーはピンセット状の先端部分でダニの頭部をつかみ、10-15回ほど反時計回りにゆっくり回すことで肌から取り去る道具です。肌を傷つけることはありません。使用した場合はお迎えの際に使用した場所についてお伝えします。
- ・ご自宅で気づいたとき
こども園 (電話 01655-4-2413) に相談してください。
※除去の際にダニの頭部が残った場合や除去のあとに腫れるなどの異常があった場合には病院で処置をするようにしてください。

スズメバチ



<特徴>

- ・性格は非常に攻撃的である
- ・活動期間は5月の連休頃から秋
- ・北海道で刺される被害は8-9月に集中している



<刺されないための予防策>

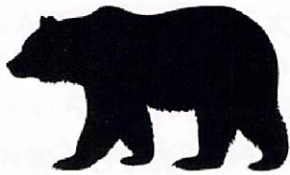
- 森のあそびの活動場所であるみくわが丘は毎年春にハチを誘引・捕獲する「ハチトラップ」を設置しています。他にも気をつけることとして、つぎのことがあります。
- ・巣を見つけたら絶対に近づかないこと
 - ・ハチが近づいてきても追い払ったり、叩いたり、走って逃げたりしないこと
 - ・黒い色に反応して攻撃するため野外で活動するときは白などの明るい色の服を着ること
 - ・強い匂い (柔軟剤) 等はハチを誘引したり興奮させることがあるので控えること

<刺されたときの対応>

スズメバチの毒は強いので、刺された場合はすみやかに応急処置をします。

- ①まずは慌てず、騒がずに…安全なところへ避難する。
- ②水で洗い流す…針が残っている場合はピンセットで抜く。
ハチの毒は水溶性なので、傷口から手で毒液を絞り出しながら水でよく洗い流す。
- ③患部を冷やして病院へ…氷などで患部を冷やしてすぐに病院へ行きます。

クマ



<特徴>

- ・基本的には臆病
- ・耳と鼻がよく効く。目はあまりよくない。
- ・活動期間は春から初冬。冬は冬眠している。
- ・逃げると追いかける性質がある。

<出会わないための予防策>

クマの出没情報は下川町役場の「アニマルアラート」を確認しています。

また、役場の方で電気柵を設置したり草刈りをしてクマが市街地に近づかないように対策をしています。今年度はみくわが丘にも電気柵を設置します。

もし活動場所の近くで出没した情報がある場合は事前に先生方と話し合い、活動場所の変更等の対処をします。

森に入るときは「大きな音を出す」「複数人で行動する」「周囲の様子に気を配る」というのが大切です。クマは人間の存在を知ったら、自ら会わないように立ち去ります。

森のあそびの実施時には念のためクマスプレーを携帯しています。

<出会ってしまったときの対応>

予防策をしていても万が一ヒグマに出会ってしまうこともあるかもしれません。

そんなときは絶対に走って逃げないこと。背中を向けて走るとヒグマは本能的に追いかけてきます。もし出会ってしまったら、つぎのように対処します。

- ①止まれ…まずは動きを止めて
- ②逃げるな…ヒグマから目を離さない
- ③集まれ…仲間がいたら静かに集まる。

ヒグマを見ながらゆっくりと後ずさりして離れる。

ヒグマも人間が怖いので、これでほとんど大丈夫です。

明治以降、ヒグマに人間が襲われた例は単独行動をしているときです。
集団で襲われた例はありません。



森のあそび以外にも森に入る目的は様々ですが、森という場所は土・植物・虫・動物などいろいろなものが関わって成り立っています。どれも生態系の中では必要不可欠な存在です。森は人間だけのものではありませんので、ダニ・ハチ・クマなどの存在をただ怖がったり嫌がったりするだけではなく、まずは相手のことを正しく理解することが大切です。